



VOL. 7 NO. 6 The University of the Ryukyus Library Bulletin 1974.11.1.

文 献 複 写 依 頼

情報量と出版量の増大で、如何なる大学図書館であってもすべての情報や出版物を収集することは不可能になってきた。これを補なうために、図書館相互協力の一環として、国立大学図書館間で文献複写サービスを行うことになっている。しかし他大学から本学図書館への文献複写の申込みはほとんどなく、本学から他大学への文献複写は4月-9月の6ヶ月間で200件をすでに越している。本学では、図書、雑誌資料はほとんど図書館で集中管理し、サービスしているが、本土の他大学の場合は、学部図書館(室)や研究室等にも多くの資料が分散所蔵されているため、附属図書館は、文献複写の依頼を受けると、図書館にない資料は、各学部、学科、研究室等をまわって、当該資料を借用してきて、複写して依頼者へ送付する手続きと手数料をかけている。このように手数料と時間をかけているのに、申込者はこのようなことをご存知ない方が多いようで、申込方法および記載事項等に不備なものが多い。そのため再調査や所在調査に相当の手間と時間を要し、業務全体に障害とさえなる要因をもつものもある。不備な記載で複写依頼を出すと、大抵「調査不能」「当該資料なし」「所蔵なし」で返送されてくる。文献複写申込みをなさる際は、もれなく必要事項を記載していただきたい。この申込書の不備は必しも申込者の手落ちだけではなく、従来引用文献の記載事項が不完全なため、文献の確認

や文献複写ができないものが多い。また引用文献の雑誌名を自己流で省略してあるために書いてある人しかなかったり、おぼろげにしか出合うことがある。そのため人手不足と納期のおくれをきたし、各大学図書館では、四苦八苦の状況におこまれている。図書館相互協力は美しい文句ではあるが、反面図書館員泣かせなものでもある。

(1) 学外への文献複写依頼について

文献複写申込書（国立大学は全国统一様式）に所要事項を記入して、参考調査係（図書館4階）へ申込んでいただければ図書館でお世話いたします。申込用紙は図書館4階カウンターに準備されています。

申込用紙ご記入の際は、誌名 巻号 発行年月 ページ 著者 論題等を必ず書きこんでください。特に誌名を省略される方が多いのですが、当該分野の方には常識であっても、他の分野の人には皆目わからない場合があります。複写料金の支払手続及び送金は、国費（校費）による場合は、複写を行った国立大学から納入告知書が送られてきますので、これによって、各学部事務部会計係で行うことになっています。私費による場合は申込者が送金します。

私立大学または公立大学へ文献複写申込をする場合は、私費負担となりますので、あらかじめご承知おきください。この場合は送金は申込者自身で行うこととなります。たいていの場合、申込書を送付してから3～4週間位で複写済通知と料金請求書が送られてきます。料金支払後、複写物を送ってくださることになっています。

学生の場合は、すべて私費負担で、送金は申し込んだ学生自身で行っていただきます。

国公立を問わず、申し込んでから複写物が届く日数は平均30日位を要しています。

(2) 複写料金について

複写料金は国立大学の場合、全国统一されており、下記のとおりです。

※ 校費支弁の場合、本学ではゼロックス及オフセット印刷については下記の特別料金になっています。

ゼロックス	/ 枚	/ 3円
オフセット印刷	原紙 / 枚につき	50円

（但し印刷用紙は申込者負担）

	区分	料金	備考
1	マイクロフィルム方式による文献複写		
イ	基本料金 1件につき	50円	
ロ	ネガフィルム撮影料		
	1コマにつき		
	学外者の場合	10円	
	学内者の場合	8円	
ハ	特殊撮影料 1コマにつき	2円	和漢書で特別な技術を要するものについてネガフィルム撮影料に加算する額をいう。
ニ	複写用印画紙による引伸料 (リーダープリンターによるものを含む)		
	A 5版 1枚につき		
	学外者の場合	25円	
	学内者の場合	20円	
	B 5版 1枚につき		
	学外者の場合	40円	
	学内者の場合	30円	
	A 4版 1枚につき		
	学外者の場合	50円	
	学内者の場合	40円	
	B 4版 1枚につき		
	学外者の場合	70円	
	学内者の場合	60円	
2	電子複写方式による文献複写		
	B 4版 1枚につき		
	学外者の場合	35円	B 4版以下の用紙を使用した場合もB 4版の料金とする。
	学内者の場合	30円	

(※ 通信運搬費は、文献複写の依頼者において実費を負担するものとする)

(3) 国立大学図書館相互利用について

九州地区国立大学図書館協議会実務担当者会議において、国立大学図書館相互の利用の便をはかるため、閲覧依頼文書を携行すれば、当該大学図書館の資料の利用を許可する取決めを行った。

本学図書館でも次の閲覧依頼の文書を発行しますので、これを携行すれば各国立大学図書館の資料を閲覧することができます。

〇〇大学附属図書館長殿

琉大図第〇〇号

昭和 年 月 日

琉球大学附属図書館長
館長名

貴館の利用について。(依頼)

下記のとおり、本学から、貴館図書資料の利用につき申出がありましたので、ご許可下さいませようご高配お願い申し上げます。

なお、本人は を携行いたしますので
ご照会願います。

記

氏 名
身 分
住 所
目 的
期 間
資料名

※条件 貴館の利用規則に従います。

恩河本「小祿御殿本組踊集」の裏打修復

本館では貴重書恩河本「小祿御殿本組踊集」の修復を、古文書の裏打、製本業を専門にしている当間恵喜氏に依頼していたが、去る9月/0日に修復を終え納庫された。

恩河本組踊集は、今次大戦で消失した「小祿御殿本組踊集」を恩河朝祐氏が明治3/年に書き写したものである。これが、関係者の強い要望にこたえて、/97/年3月7日、持主の恩河春子さん（東京都港区白金台2-5-3）から沖繩タイムス社を通して本館に寄贈された。

保存状態は比較的良好で、虫食いはあまりみられないが、小口（前小口）のめくれがはなはだしかった。今度の裏打修復で、めくれあがっていた小口も丹念にのばされ、緞子張りの表もつけられて、桐箱に納めてある。

本館ではこの貴重な資料を末永く保存して、ご寄贈下さった恩河氏のご好意に報いたいと思っている。

浦添家本伊勢物語 文化財に指定

本館所蔵の「島袋源七文庫」の中に納められている「浦添家本伊勢物語」が、去る9月/9日、県教育委員会から重要文化財に指定された。

浦添家本は、首里の浦添家につたわる伊勢物語の写本で、国宝級のものだとされている。東恩納寛惇は「浦添家本は、文明十二年の肖拍自筆本に依る肖聞て、その字体や紙質綴方から見て室町中期比の古写本で、混效験集編輯の時の台本になったものであらうと考えられる」と述べている。

本館にとっては、/958年に重要文化財に指定された「屋比工工四」につぐ文化財指定資料である。

マイクロフィルム版資料の紹介

マイクロフィルム版の貴重資料の整理が完了しました。利用者は、閲覧係に申込みれば複写室で閲覧できます。

(/) 悟陰文庫（井上毅文書）

明治の政治家井上毅（/843～95）の旧蔵文庫で、国学院大学図書館に寄託されたものの全マイクロフィルム版である。内容は、内政外交の草稿類、外人法律顧問に対する問答書類など約6,000点と、他に和書、漢籍などを含んでいる。この文書の中には、沖繩関係の資料/4/点も入っており、明

治史を研究するものにとっては貴重な資料と思われる。

(2) 国語学資料集成

静嘉堂文庫に所蔵されている国語学関係の資料のマイクロフィルム版である。静嘉堂文庫とは、青木信實、山田以文、色川三中、田中頼庸、宮島藤吉及び「大日本国語辞典」の編者として知られる松井簡治の旧蔵書を、岩崎殊之助、小弥太の父子二代によって集収した文庫である。松井本は約6,000部、2万冊で、文庫所蔵の和書のほぼ四分の一に達し、集収範囲は和書の各分野にわたっているという。特に古来の辞書類、国語学資料等において比較的によくまわっているようである。今回のマイクロフィルム版は、国語学資料を中心とし、これにその他の収集のものを併せたものである。

(3) 明治年間教育統計資料

明治75年から45年までの全県の教育統計資料のマイクロフィルム版である。明治の教育事情を研究する者にとっては下記の「明治前期教育史料解説」と併せて重要な資料と思われる。沖縄県も収録されているので、この方面の研究にとっても貴重な資料となる。

(4) 明治前期教育史料解説

これはおおよそ次のような内容のマイクロフィルム版である。法規分類大全、学規全書、文部省日誌、文部省雑誌、文部省教育雑誌、文部省報告、文部省布達(命令)全書、府県教育法令、学校規則、学則及教則、府県史料、学事の部。

(5) 法令全書

印刷局編集発行の「法令全書」のマイクロフィルム版である。収録範囲は慶応3年から昭和20年となっている。収録内容は、慶応3年から明治初年までは、大政官日誌及び公文書類その他諸家記録等による。その後昭和20年12月までは、官報に登載してある詔書、皇室令、法律、予算、予算外国庫負担トナルベキ契約、勅令、条約、軍令、律令、閣令、省令訓令、告示を各部類に分け、省令以下も各庁別に編さんされている。幕末、明治、大正及び昭和は終戦直前までの我国の全法令をこれによってみるができる。

(6) 琉球新報

国立国会図書館に所蔵されている、明治37年4月から大

正7年までに発行された「琉球新報」のマイクロフィルム版である。これで、本館では「沖縄毎日新聞」とともに、現存する明治、大正のころの沖縄の主要新聞がそろったことになる。

提出期限

図書館で図書購入、購入希望雑誌リストの提出依頼や事務連絡等で回答を要する文書を発送日から10日間位の日数を期限として、学部、学科へ送付すると60%内外が期限内に回答をよせてくださる。あとの40%前後は責任者が何らかの理由で不在か、または教官会議や教授会を開く機会がなくて、結論を得られない所が多いようだ。ごくたまにおこることだが、図書館側は確かに発送し、各教官室のポストに入れた積りの文書でも届いていないことがある。提出期限がすぎて2~3日してから、回答のない学科や先生方に電話で督促すると、さかねじを食わされて、どう答えて良いか解らないことがある。提出期限を過ぎてから督促するからそういうことになるのであろうか、まことにいたしかゆしのことをおっしゃる方がいらっしゃる。日く「ほんとうの提出期限はいつですか。」

図書館日誌（8月~10月）

8月8日（木）

整理係長新井裕文、文部省主催の大学図書館職員長期研修に参加、図書館短期大学、9月3日まで。

8月12日（月）~20日（火）

書架整理作業、1階~5階全館、全職員。

9月3日（火）

第1回図書館建築研究委員会 17:00-18:40

9月11日（水）

第2回図書選択委員会 16:00-17:00

9月12日（木）

第1回コンピュータ研究委員会 16:00-19:30

○電子計算機室長山下崇教授及び技官宮里憲氏を招いて行う。閲覧業務、教官研究用図書の予算差引、雑誌代金等の機械化、郷土資料のコンピュータへの導入について質疑応答、懇談した。

9月17日（火）

第2回図書館建築研究委員会 16:30-18:00

9月/8日(水)

図書館建築について施設部との懇談会、館長室 14:00-18:00

9月20日(金)

第80回図書館運営委員会 13:00-16:00

○二次資料の選択及び負担区分、共用雑誌の選択について。

10月3日(木)

第2回コンピュータ研究委員会 13:00-17:00

○東大、阪大、群馬大学附属図書館の図書館業務機械化システム概要の読合せ。

第3回図書選択委員会 17:00-18:00

10月8日(火)

職員館内研修会 14:00-16:30

○講師 事務長平良恵仁

(1) 図書館の意義と機能 (2) 図書の受入、選択、収集について (3) 図書の整理保管について

10月9日(水)

職員館内研修会(続) 14:00-17:00

○(1) 図書の整理保管について(続) (2) 閲覧業務について (3) 参考業務と大学図書館における文献探索サービスについて

10月/1日(金)

第3回コンピュータ研究委員会 13:00-17:00

10月/4日(月)

職員館内研修、教育ビル104教室 13:00-17:00

10月/7日(木)

第4回コンピュータ研究委員会 13:00-17:00

10月/8日(金)

第81回図書館運営委員会 13:00-17:00

○昭和50年度共用(学生)雑誌の選定について

○昭和50年度新規学術雑誌の購読承認について

○Chemical abstracts, Biological abstractsの負担区分について

琉球大学附属図書館報 “びぶりお” 第7巻6号 [通号29]

昭和49年11月1日 発行 編集兼発行人 平良 恵仁

沖縄県那覇市当蔵町3丁目1番地 電話 34-0101 (内 333)